

青蘭 せいらん

第十四号 平成二十三年一月発行 No.14 Jan, 2011.

〒590-0027 大阪府堺市堺区榎元町 1-5-1

TEL 072-233-1880

FAX 072-222-1709

URL <http://www1.kcn.ne.jp/~mokuno/>

編集・発行 三国丘病院 医療福祉相談室



児童期の精神科治療における薬物療法について

必要がなければ薬は使用しないほうがよい。当然である。しかし、必要があるのに使用しないのは問題がある。一方、薬だけですべてが解決するわけでもない。環境調整や心理教育、心理的介入が必要であるのは言うまでもない。

精神科で使用される薬物は、多くは長期にわたって使用されるための薬である。統合失調症やうつ病、てんかんなどの薬物は、数ヶ月あるいは年単位の使用を原則とする。故に成人ではその安全性は高いと考えられる。一部例外はあるが、児童期精神科診療を行っている医師は、その都度必要性と長期的予後を考慮しつつ判断しているはずである。その背景には、児童期の診療についての文献的知識とこれまでの診療経験がある。

にもかかわらず、よく聞かれるのは、以下のような質問である

— 副作用はないか？長期間飲んで大丈夫か？子どもに薬を飲ませるのは反対である。必要ないと思う。あるいは、逆に薬を出してもらってくるよう言われた —…

いずれも、本人と直接長期間接することがなく、将来にわたって責任を負わないであろう、教員、祖父母、親戚、近所の知人、インターネットの情報などの発言による影響である場合が多いよう思う。もちろん副作用のない薬はない。故に正しい診断、正確な状況把握、定期的な副作用チェックは必要である。信念や感情論ではなく、客観的かつ冷静に判断する必要がある。

児童期の精神的問題に取り組んでいるのにもかかわらず、投薬は行わないという医療機関がある。そのような機関においては心理・社会的介入がどこまでできているか、疑問である。はじめに取り組めば、心理的、社会的に加え、生物学的視点から治療を行っていく必要があることに気づくのは自然だからである。

一方、多くの薬が小児では添付文書上は安全性が確立されていないのも事実である。小児では治験が行いにくいという事情はあるが、専門機関とされる厚労省や学会、研究、診療機関が、積極的に協力し、安全で有効性が確立された治療が、臨床場面で行えるようにしてほしいと思う。

(2011.01.25.)

医療法人サヂカム会副理事長・三国丘こころのクリニック院長 奥野正景(おくの まさかげ)

病院理念 誠意ある明るく開かれたこころの医療

基本方針

1. 安全で安心できる医療を目指します。
2. 説明と同意に基づく信頼される医療を目指します。
3. 職員は、患者さまの人権を尊重し、誠実な態度で業務に励みます。
4. 職員は、研鑽に励み、質の高いチーム医療を目指します。
5. 職員の専門的知識と経験を生かし、地域の精神保健福祉活動に協力します。

看護部理念

私達は常に患者様とそのご家族の立場に立って考え、その人にとって最良の看護が提供出来るように、誠意と愛情のこもった看護を目指します。



2011.1.5. 初出
本年もよろしくお願いします。



科
目
変
更


M:H M:H M:H M:H

昨年11月1日、当院・三国丘病院と付属診療所・三国丘こころのクリニックは、ともに診療科名を変更し、新しい年を迎えました。三国丘病院は、「精神科・心療内科・神経内科・児童精神科」となり、こころのクリニックは「児童精神科・精神科・心療内科」となりました。科目目標榜方法についての法令改正(平成20年)に、遅ればせながらも合わせたものですが、現在の診療機能・専門性に合致した科目を打ち出し、両院の性格付けを明確にする意図もありました。本年も両院をよろしくお願ひいたします。

前号でお知らせしましたとおり、昨年2月に病棟3階の喫煙室を、7月に病棟2階喫煙室を廃止し、これをもって建物内を完全禁煙としました。

現在、“愛煙家”には苦しい社会状況となっていますが、厚生労働省の方針でもある受動喫煙防止、個人の健康増進などの観点に則り、当院も禁煙化に踏み切りました。

廃止された2つの喫煙室の場所は、今後、快適な療養環境づくりのために活用していく予定です。喫煙者のための禁煙支援プログラムも継続中です。今後も、禁煙に限らず、患者さまを中心とした、ハード・ソフト両面の拡充を目指していきます。



全面禁煙化

レクリエーション 院外 & 院内

Recreation
outdoor and indoor



ハッスル運動会

(堺市精神障がい者地域交流運動会)
10月14日、堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンターで行なわれました。次回は当院が幹事役です。



園芸
す。
中庭
で育
てま



七夕
& バザー
まつり
バザー
は衣類
が人気。



クリスマス会 全員でコラス。



子どものこころ #4

「子どもの習癖（くせ）」

無くて七癖…と言いますが、“癖”とは、身についた、習慣的に繰り返される動作や行動のことを指します。一般的には、周囲から好ましくないと受け取られるものを言うことが多いようです。

児童精神医学や発達心理学、神経心理学では、子どもの頃に見られる、特に身体をいじる動作を、習癖あるいは習癖異常と呼んでいます。狭義には、指しゃぶり、爪噛み、性器いじり、抜毛癖などの身体玩弄癖を指しますが、広義には、身体動作を伴うものの（振頭、叩頭、回頭、体搖などの律動的・反復的動作）、睡眠問題（夢中遊行、夜驚）、食事問題（食指不振、過食、異食）、排泄関連問題（遺尿、遺糞）、言語上問題（吃音、選択性緘默）なども含まれます。各論は別稿に譲りますが、範囲はかなり広く、一定していません。かつては、チック（突然に、急激に反復される動作や音声）も習癖に含まれていたこともありましたが、現在では別に論じられています。

これらは、古くは「神経性習癖」と呼ばれ、心理的な葛藤によって起こる神経症的なものと考えられてきました。しかし現在では、神経系の発達に応じた好発年齢があることや、素因が関与することから、必ずしも心理的な要因によるものではないと捉えられています。

発現ピークとなる年齢は習癖によって異なりま

すが、加齢とともに減少する傾向は共通しています。大まかに言って、中学生に上がる頃までには減少していくようです。神経系の発達が関与しているのであれば、これはむしろ当然のことでしょう。基本的には発達を見守り、自然寛解・消失を待つ周囲の態度が必要と思われます。固定化・長期化している事例を見ると、なかには家族・学校を含む環境条件が関与していると思われることがあります。周囲からの反応が、習癖を抱えた子どもに葛藤や罪悪感、不安を与え、それが成因ではないものの、長期化させる二次的要因となっているのかもしれません。

一般に、子どもは8～10才頃に最も暗示にかかりやすく、学習能力と知能もこの次期に飛躍的に伸びます。いわば、何でも覚え、癖になりやすい時期です。爪噛みや抜毛、夢遊、それにチックなどは、この同じ時期に有病率がピークに達するという報告があり、環境からの刺激が、習癖形成に関与していると示唆されます。

治療では、薬物療法、環境調整や家族ガイダンス、心理教育などを、一人ひとりの状態・状況に合わせて、総合的に判断して行ないます。原因に神経生物学的基盤があることを前提に、子ども本人の性格や家族の養育を責めず、罪悪感をもたらさないようにすることが、治療の第一歩と思われます。

（心理室）



当法人グループホーム（以下、GH）利用中のAさん（女性）に、GHでの生活についてお話を伺いました。

院内茶話会にて（昨年9月21日）

グループホーム
えびす だより

—Q. しんどいことはありますか？
A. ありません。楽しいですよ。世話人さんに料理など色々教えてもらえるし。

—Q. 日常生活をどのように過ごしておられますか？

A. 週3日デイケアに、ほかは作業療法に参加しています。日曜日は朝から夕方まで教会に行っています。木曜日は、昔から仲の良い参加者さんたちと、お昼ご飯と一緒に食べに行くのが楽しみです。月曜日は、特に予定を入れず買い物の日にしています。GHのすぐ近くにスーパーとショッピングモールがあるので、便利ですね。



GHでは、世話人さんと一緒に夕飯を作ったり、掃除をしたりしています。お風呂も自分で沸かしています。今年の夏は暑かったので、毎日シャワーを浴びていました。ベランダでは、プランターにネギを植えたり、コスモスを植えたりしていますので、その水遣りも欠かせません。あとは、時間があれば趣味のレース編みをしています。今は、ピアノカバーを作っています。

—Q. 退院してよかったです？

A. よかったです。自由だし。好きな物が食べられるし。献立は毎日考えて、献立の内容を記録して栄養のバランスには気をつけていますが、入院中より体重が増えました。入院中は生活リズムが崩れがちでしたが、今はデイケアが始まるまでに病院に来ないといけないこともあります。退院してからのほうが規則正しい生活になっています。

—Q. 困ったことが起きた時はどうしていますか？

A. 日常の生活に関することは世話人さんに相談することが多いです。それ以外の事は、Hさん（サービス責任管理者）に相談しています。Hさんとは、ほとんど毎日お話ししてま



すね。ご近所への挨拶周りや自治会の月当番の時も一緒にいってもらいました。

—Aさん、どうもありがとうございました。

外来案内

Information & Guidance

平成 23 年 1 月 5 日～

	月	火	水	木	金	土
午	1 診 齊藤*	河口*	天富	菅谷	千頭*	菅谷
前	2 診 楠部**	千頭*	菅谷*	齊藤*	関野*	河口*
午	1 診 千頭*	原口	関野	原口*	河口	齊藤*
後	2 診 原口	—	奥野*	辻*	—	河口*

★：予約診察。予約は外来看護窓口でお取り下さい。

＊：薬のみ診察の方。1時間ほどで第1診察室に切り替わります。

(月) 午前第2診察室は1時間程度お薬の後、

予約診察に切り替わります。

◇担当医が変更になることがあります。事前にお問い合わせください。

◇児童精神科外来：

(月) 午前 第2診察室

(水) 午後 第2診察室

(土) 午後 第2診察室 すべて予約制

【診察時間】 (月)～(土) 午前 9:00～12:00(受付は11:00まで)
午後 2:00～5:00(受付は3:30まで)

【休診日】 日曜、祝日、年末年始(12/29 午後～1/3)、創立記念日(1/4)

Access & Map



病院案内

〒590-0027 大阪府堺市堺区樅元町1丁5番1号

TEL 072-233-1880

FAX 072-222-1709

URL:

<http://www1.kcn.ne.jp/~mokuno/>

●南海高野線 堺東駅下車

東出口より、南東へ徒歩約5分。

●駐車スペースが少ないため、

できるだけ電車等の公共交通機関をご利用ください。



■診療科目 精神科・心療内科・神経内科・

児童精神科

■開設者 千頭孝史

■精神科病床 144床

●昭和36年開設

●精神科病棟 15対1

●看護師比率 70%以上

●看護補助 10対1

●完全院外調理

■併設施設・承認等

・薬剤管理指導施設

・精神科作業療法施設

・精神科デイケア(大規模)「けやき」

・付属診療所 三国丘こころのクリニック

〔院長 奥野正景〕併設:こどもショートケア「和一なごみ」

・共同生活援助・共同生活介護 グループホームえびす

・臨床研修医師協力施設

・清恵会医療専門学院准看護学科実習施設

・側日本医療機能評価機構 病院機能評価認定病院

■地域精神保健活動

・阪奈中央リハビリテーション専門学校作業療法実習病院

・堺市教育委員会嘱託医

・堺市就学指導委員会委員

・大阪府立堺支援学校校医

・大阪市立大学医学部非常勤講師

・堺市こどもセンター非常勤医師

・近畿中央胸部疾患センターリハビリテーション学院非常勤講師

・大阪市嘱託医

・堺市嘱託医

・大阪府堺地域産業保健センター メンタルヘルス相談